

指導資料



鹿児島県総合教育センター

図画工作 第36号

- 小学校，特別支援学校対象 -

平成21年5月発行

図画工作科で育成する資質や能力についての考え方とその指導法 - 発想や構想の能力及び創造的な技能，鑑賞の能力 -

これまで，図画工作科の授業においては，「絵をどう描かすか。」，「工作をどのようにさせるか。」など，いわゆる図画工作科の技術的側面に重点が置かれ，どのような力を身に付けさせるかという資質や能力の面での指導が必ずしも十分ではなかったという現状がある。今回の学習指導要領の改訂でも，児童に「生きる力」を身に付けさせることを一層重視する観点から，指導内容が育成すべき資質や能力ごとに整理され，表現や鑑賞の活動の過程で働く力を明確にするとともに，それらが関連して働くように内容の改善が図られた。そこで本稿では，図画工作科で育成すべき資質や能力についての基本的な考え方と，その指導法について述べる。

1 図画工作科における資質や能力の考え方

まず，資質や能力とはどのようなものかであるが，資質はある活動を始める前に児童に備わっている力のことであり，その力を活用して新たに獲得した力が能力である。また，新たに獲得した力（能力）は，次の活動を始める前の資質になるという関係がある。このように資質と能力は相互に絡み合いながら成長していくのである。

次に，図画工作科で育成すべき資質や能力であるが，それは，造形への関心や意欲，態度，発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の能力のことである。今回は，特に表現の活動を通して育てる発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の活動を通して育てる鑑賞の能力，そして，今回新たに付け加えられた〔共通事項〕について以下述べていく。

(1) 表現を通して育てる資質や能力

表現を通して育てる資質や能力は，発想や構想の能力と創造的な技能に大別できる。発想の能力は，自分なりに造形的な感覚や感受性を発揮し，対象を見て感じ取り，想像力を働かせて表現の意図や思いなどを心の中に思い描く能力のことである。構想の能力は，感じたことや考えたことを基に，想像力を働かせながら，よさや美しさなどを考え，よりよい方向や方法などを考えて豊かな表現を構想する能力のことである。発想や構想の能力については，新学習指導要領において，各学年の目標及び内容に段階的に示されているが，「造形遊び」と「絵や立体，工作」の二つの領域別に整理すると以下

のようになる。

「造形遊び」及び「絵や立体、工作」とも、以下の
ような構成になっている。

- ア 主に表現の始まりにおける発想や構想の能力
- イ 主に表現の過程における発想や構想の能力

【造形遊び】

ア 児童が材料、場所などの活動の対象に出会った
ときに、感じた形や色、イメージなどから、発想
したり構想したりする能力

イ つくりだした形から新しい発想をしたり、つくり
ながら周囲の様子を考え合わせて構成したりす
る能力

【絵や立体、工作】

ア 感じたこと、想像したこと、見たことなどから、
自分の表したいことを見付けて表そうとする能力

イ 自分の表したいことや用途を考え合わせながら
色を選んだり、形をつくったり、計画を立てたり
するなどの能力

具体的に第3学年及び第4学年の内容を見てみる
と次のようになる。

【造形遊び】

アは、「身近な材料や場所などを基に発想し」
というふうに、始まりにおける発想や構想の能力
を示している

イは、「その形から発想したりみんなで話し合っ
て」というふうに、過程における発想や構想の能
力を示している。

【絵や立体、工作】

アは、「感じたこと、想像したこと、見たこと
から、表したいことを見付けて」というふうに、
始まりにおける発想や構想の能力を示している。

イは、「表したいことや用途などを考えながら、形
や色、材料などを生かし、計画を立てるなど」とい
うふうに、過程における発想や構想の能力を示して
いる。

また、創造的な技能は、つくりだすもの
の位置を決めるときや色を選ぶ際、ま
たは、形や色、材料を構成するときなど
に働く資質や能力であり、表し方の工夫
ができ、豊かな表現を生み出す力でもあ
る。それは、用具を扱うときにも発揮さ
れる能力である。例えば、のこぎりを引
くことができるという技術面だけでなく、
のこぎりをどう使えば、うまく切れるか
試行錯誤しながら獲得していく能力でも
ある。新学習指導要領では、創造的な技
能について以下のように示している。

【造形遊び】

ウ 体全体を動かしたり、材料や用具の経験や技能
を総合的に生かしたりするなどの創造的な技能

【絵や立体、工作】

ウ 材料や用具の特徴を生かして使うとともに、様々
な表し方を工夫するなどの創造的な技能

具体的に第1学年及び第2学年、第3学年及び第
4学年の内容を見てみると次のようになる。

【造形遊び】

ウは、「並べたり、つないだり、積んだりする
など」、「組み合わせたり、切ってつないだり、
形を変えたり」など、活動の技能的な側面につ
いて示している。

【絵や立体、工作】

ウは、「身近な材料や扱いやすい用具を手を働
かせて」、「材料や用具の特徴を生かし」など、
創造的な技能を示している。

(2) 鑑賞を通して育てる資質や能力

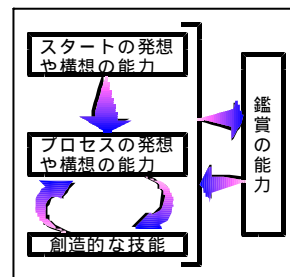
鑑賞の能力とは、児童がよさや面白さ、
美しさなどに触れる過程で、自分らしい
感じ方や見方ができる資質や能力のこと
である。言い換えれば、形や色、作品な
どのよさや美しさを能動的に感じ取っ
ていく資質や能力のことである。鑑賞の能
力について整理すると以下のようになる。

形や色、作品などによさや美しさを能動的に感
じ取る力
自分の見方や感じ方を深め、作品などを大切にし
ようとする態度

ア 自分たちの作品や我が国や諸外国の親しみのある
作品などの「よさや面白さ」、「よさや美しさ」な
どを感じ取る能力を示している。

イ 感じ取ったことを話す、聞く、話し合うなどの活
動を通して、「感じの違いなどが分かる」、「表現
の意図や特徴などをとらえる」などの能力を示して
いる。

このような表現
や鑑賞の活動を通
して育てられる資
質や能力は単独で
存在するのではな
く、右図のようにお互いに関連し合っている。



(3) 【共通事項】における資質や能力

【共通事項】とは、表現及び鑑賞の活
動の中で、共通に働いている資質や能力
のことであり、児童の活動を具体的にと
らえ、造形的な創造活動の基礎的な能力
を育てるための視点として、今回新たに
加わった事項である。具体的には、自分

の感覚や活動を通して形や色，動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること，そして，これを基に自分のイメージをもつことの二つの事項で構成されている。整理すると以下のようなになる。

<p>アは，形や色などを児童がとらえることに関する事項 自分の感覚や活動を通して， 低学年では「形や色などを」 中学年では「形や色，組合せなどの感じを」 高学年では「形や色，動きや奥行きなどの造形的な特徴を」とらえること</p>	
<p>具体的には，低学年では，大まかな形や色，好きな，あるいは，こだわっている形や色などのことであり，中学年では，形の柔らかさ，色の冷たさ，色の組合せによる感じ，面と面の重なりから生まれる前後の感じなどのことである。高学年では，形そのものがもつ方向性，表面の材質感の違い，色の明るさや鮮やかさ，時間的な変化の動き，大きな建物の量感や奥行きを感じ，ものの動きやバランスなどのことである。</p>	
<p>イは，イメージに関する事項 低学年では「形や色などを基に」 中学年では「形や色などの感じを基に」 高学年では「形や色などの造形的な特徴を基に」 自分のイメージをもつこと</p>	
<p>具体的には，低学年では，大まかにとらえた形や色などを基に自分なりのイメージをもつことであり，中学年では，形や色の感じ，自分の思いや経験など，様々な手掛かりを基にイメージをとらえることである。高学年では，外界から立体の構造や空間を把握したり，心に描いた情景や像などから形や色を考えたりするなど，具体的な特徴に即してイメージをもつことである。</p>	
<p>アとイは，相互に関連し合う関係にあることに留意する。</p>	

2 資質や能力を育てる指導法について

(1) 発想や構想の能力

発想や構想の能力を育てる指導法の工夫の視点は以下のとおりである。

<p>ア，イの事項</p>	
1・2年	<p>造形遊び 十分に材料とかかわることのできる安全な場所を準備する。 進んで造形活動が始められるような提案を行う。 発想を広げることができると時間の確保を行う。 表現の思いを材料，友人などの児童を取り巻く環境からとらえ，造形的な試みを見守り，励ます。</p>
3・4年	<p>児童がいろいろ試みる中で発想が広がるようにする。 材料とかかわる中で生まれた気付きやイメージなどを基に，話し合わせる。</p>
5・6年	<p>自分なりの視点を決めて材料を集めたり，場所を探したりできるようにする。 材料と場所の関係を自分の感覚や活動を通してとらえられるようにする。 材料や場所にかかわる活動から気付き，その実感を基に活動を展開できるようにする。</p>
	<p>絵や立体，工作 児童の意欲が高まり，継続するような指導を行う。 活動を進めながら表現したいことを見付ける児童の発達の段階を考慮する。 行きつ戻りつしながら表すことのできる過程を重視する。 表す過程で表現形式の広がりが見られるので，柔軟に対応する。 進んで表現したいことが見付けられるように題材提示の工夫を行う。 試しながら表せるような配慮をする。 次第に表現したいことや用途などが明確になるような指導を行う。 主題の発想について児童自身が行うことを大切にす。 工夫の視点や見方を広げる，自分の心に問い掛けるなどの指導の工夫を行う。 これまでの経験を十分生かすことのできるような指導を行う。 児童の発想に柔軟に対応できる指導が重要である。</p>

具体的な指導法の工夫として，多様な発想を促す題材名の工夫，発想力・構想力を刺激する事前の手だて，発想を促す五感に訴える思いの広げ方，豊かに構想させるための手だてを図画工作指導資料第35号（通巻第1592号）に掲載してあるので参考にしてほしい。

(2) 創造的な技能

創造的な技能を育てる指導法の工夫の視点は以下のとおりである。

<p>ウの事項</p>	
1・2年	<p>造形遊び 思い付いた方法をすぐ試すことのできる環境を用意したり，材料や用具を活用できる時間を十分に確保したりする。 児童が体全体を働かせて発揮している創造的な技能をとらえ，これを一層伸ばすような指導と評価の工夫を行う。</p>
3・4年	<p>用具を使ったり表し方を工夫したりする中で創造的な技能が育つような指導を行う。 多様な材料や用具を準備したり，逆に材料や用具の種類や数を絞ったりするなど，児童の経験や実態を考慮する。</p>
5・6年	<p>これまでの経験が総合的に活用できるような指導を行う。 材料や用具の幅を広げる。 材料や場所を形や色だけでなく，自然の現象や動き，空間や奥行きなど様々な視点から分析的にとらえながら活動できるようにする。</p>
	<p>絵や立体，工作 材料や用具に十分に慣れさせながら，基本的な扱いができるようにする。 表現方法と技能は，密接に関係していることに配慮し，用具を使うことから表現が広がるような指導を行う。 いろいろな表し方を体験させるようにする。 用具の扱い方に慣れさせるとともに，安全に配慮する。 自分の表現したいことに合わせて使うだけでなく，用具を使うことから表現したいことが変化したり，広がったりすることにも配慮する。 これまでの材料や用具の経験を活かせるような指導を行う。 友人の表現方法や材料の使い方が自然に取り入れられるような学習環境を設定する。 児童自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付くようにする。</p>

(3) 鑑賞の能力

鑑賞の能力を育てる指導法の工夫の視点は以下のとおりである。

<p>アの事項</p>	
1・2年	<p>進んで見たり，触ったり，話したりするなど，自ら働き掛ける能動的な鑑賞を行う。 児童の興味・関心を重視し，身の回りの作品や材料などを見たり触ったりしたときのその率直な喜びを大切に，それを広げたり確かめたりできるような指導を行う。</p>
3・4年	<p>自分たちの作品，身近な美術作品や製作の過程を鑑賞させる。 児童が自分で見付けたよさや面白さを，児童自身が自ら気付くようにし，それを表現や鑑賞に生かすようにする。 造形活動の際に，児童が材料を手にとって眺める，製作途中の作品をじっと見て材料を取り換えるなどは，表現と鑑賞が自然に進められている姿である。このような姿を取り上げたり，振り返らせたりしながら学習を充実させる。</p>
5・6年	<p>作品はもとより，それらがつくりだされた過程や暮らしの中で見られる様々な美術の動きなど，児童の実感に応じて鑑賞の幅を広くとらえる。 鑑賞する対象や鑑賞の方法を幅広くとらえ，児童がよさや美しさ，表現の意図などを自ら感じ取り味わうようにする。そのためにも，児童に対象を選ばせたり，写真やアニメーションなどの児童が興味や関心をもてる映像メディアを用いたりするなど，様々な方法を考える。</p>

イの事項	
1・2年	児童が感じたことを自分で広げられるような指導の工夫を行う。 材料の感じを扱う時間を確保する。また、友人と活動しながら児童の想像が広がるようにする。 体全体で感じ取るという低学年の特性を生かして、作品と同じ姿勢をとる、作品に触れるなど、見ることそのものを楽しむような鑑賞活動を行う。
3・4年	適切な人数で話し合う、お互いを認め合うような活動を進める、共通点だけでなく異なったらえ方や感じ方を大切にする。 自分の作品のイメージや美術作品から気付いたことなどについて、ある程度理由を付けて話したり、気持ちを振り返って書いたりする活動を行う。 一人一人の児童の経験を基に共通点や相違点、表現の工夫などを見付けることができるようにする。 印刷物や絵はがきなどを集めて、それを基にゲームをしたり、自分たちで組み合わせて美術館をつくらしたりするなどの鑑賞活動の工夫を行う。
5・6年	感じ取ったことや思ったことを話したり友人と話し合ったりする活動を通して、表し方の変化、表現の意図や特徴をとらえさせる。 自分の作品や美術作品などの形や色と自分のイメージを関連付けながら話したり、まとめたりすることができるようにする。 児童自身が自分の作品について語ったり、適切な人数で話し合ったり、ゲーム的な活動をしったりするなど、他者との交流を重視した活動も取り入れる。 伝統と文化に関する学習については、自分たちのよさを再発見する視点で行い、これを大切にしたり、芸術や自然の美しさを味わったりする態度の基礎を育成する。

ることはできないが、大切なことは〔共通事項〕が表現や鑑賞の領域や活動などの全体にかかわる事項であることを踏まえて、これまで行われてきた指導内容や方法を〔共通事項〕の視点で検討し、改善するということがある。ただし、〔共通事項〕は〔共通事項〕だけを題材にしたり、どの時間でも〔共通事項〕を教えてから授業を始めたりするような硬直的な指導を意図したものではない。児童が普段の生活で発揮している資質や能力であり、形や色などを活用してコミュニケーションを行う児童の姿として表れることに配慮しながら、指導を具体化する必要がある。

(4) 〔共通事項〕

本稿では、紙面の都合上、詳細は述べ

3 学習過程の参考例（絵や立体，工作「高学年」）

過程	主な学習活動	指導上の留意点
思いをもつ	1. 学習に対する興味・関心をもつ。 参考作品のよさを鑑賞したり、材料・用具等を使って活動したりする中で、表現の方法や工夫などについて話し合い、表現しようとする意欲をもつ。	<p>授業前の工夫も考慮する（材料集め、オリエンテーションなど）。</p> <p>題材名を工夫することで、児童の主題の発想をうながす。</p> <p>表現への動機付けをする。 児童に「表現活動への期待」をもたせる重要な段階である。題材名や活動からの提案などを工夫して、発想が豊かに広がるようにする。</p>
見通す	2. 学習のめあてや活動の進め方について話し合う。 表現の手順や方法について自分なりの計画を立てる。	<p>五感を刺激する（参考作品、視聴覚機器など）活動を行う。</p> <p>アイデアスケッチ（形や色、材料、動きや興行きとイメージとの関係の視点）を行う。</p> <p>解決への見通しをもてるようにする。 児童に「自分は何をどのように表現していくのか」という、ある程度の見通しをもたせる段階である。</p> <p>場合によっては試しづくりの場を設ける。</p>
表す	3. 計画に基づいて表現する。 試行錯誤する中で、自分の表現のイメージを追求していく。 表現する中で、自分や友達の表現のよさに気付き、それを生かして更に自分の表現を追求していく。	<p>学習カードを工夫する（製作の手順、方法、作業時間など）。</p> <p>主体的に活動できるようにする。 主題意識は作品名に表れる。作品名から児童の思いを理解することに努め、つまずきや悩みを共感的に受け止め、共に考えるようにする。 試行錯誤を見守る中で、児童の表現に自身をもたせる言葉掛けや、自由に友達の作品を観るような環境を整える。</p> <p>作品名での主題意識の焦点化を行う。</p> <p>これまでの経験を想起させ、工夫の視点（形や色、動きや興行き、イメージ）や見方を広げる言葉掛けを行う。</p>
味わう	4. 完成した作品を基に表現した喜びを味わう。 自己の活動を振り返ったり、相互評価をしたりする中で、作品を表現した喜びを味わう。	<p>完成の喜び、新たな表現への意欲をもてるようにする。 自己評価や相互評価などを手掛かりにお互いのよさや工夫していることなどを認め合い、それぞれの成長に気付かせるようにする。</p> <p>随時、友達の作品に刺激を受けられるような場を設定する。</p> <p>鑑賞会や作品展示を行うことで、表現の喜びを味わわせる。</p>

図画工作科は、決して技術だけを教える教科ではない。それは、図画工作科の表層部分であり、表現や鑑賞の活動を通して育てるべき資質や能力があることを忘れてはならない。図画工作科で育てるべき資質や能力を意識し、常に授

業改善がなされることを期待する。

[引用・参考文献]

文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』

平成20年8月

(教科教育研修課)